

甲斐市議会改革常任委員会会議録

1. 開催日時 平成25年6月7日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（7名）

委員長	内藤久歳君	副委員長	山本今朝雄君
	松井豊君		清水正二君
	猪股尚彦君		池神哲子君
	保坂芳子君		

議長 藤原正夫君

欠席委員（なし）

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	中村宗和	書記	小澤明
書記	松井恵美		

議題

- (1) 議会と市民の対話集会の実施要綱（案）について
- (2) その他

開会 午前 9時58分

○委員長（内藤久歳君） ただいまの出席委員は7名です。定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

なお、猪股委員には早退の申し出がありましたので、ご報告いたします。

それでは、本日の会議を開きます。

○委員長（内藤久歳君） 初めに、議会と市民の対話集会実施要綱（案）についてを議題といたします。

昨年の実施要綱をもとに案をまとめております。昨年やってみて改善したほうがよい点等がありましたら、ご意見をお願いいたしたいと思います。

まず、1、開催時期及び場所についてであります。実施日時はいつごろがよろしいかをご協議をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

いつごろがよろしいでしょうか。

当然、前回の第1回目の状況を踏まえてのことになろうかと思えますけれども、いかがでしょうか。

山本委員。

○委員（山本今朝雄君） たしかにこの前だったですか、皆さんの意見で10月ごろがいいんじゃないとかそんな意見が多かったと思えますけれども。ただ、お役所の皆さんがそのころどうかと思ひまして。今はなるべく多くの皆さんの参加があればいいんですからね。その辺、10月ごろ、時期的にはやはり寒い時期よりかは10月前後のほうがいいのかと思ひますけれども。一つの案として、その辺も寒い時期よりかはその前のほうがという僕はそんな意見を持っています。

○委員長（内藤久歳君） 松井委員。

○委員（松井 豊君） あと、広報が回ってすぐという日程だったから、その辺を少し時間をおいてもらえればと。

○委員長（内藤久歳君） ほかにございますか。

猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 私も前回の特別委員会で、10月または11月上旬ということで解釈しているのですけれども、予定を立てて無理のないところであれば、11月上旬でも可能であればそれでもいいかなと思います。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） ほかにご意見ございますか。

清水委員。

○委員（清水正二君） 自分もほかの皆さん言われるように、10月から11月上旬くらいの目安のほうがいいかなと。前回2月ということで、寒いということもあったんで、時期的にもそのほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

○委員長（内藤久歳君） 日時については、10月か11月というふうな時期的なものがいいのではないかなというようにご意見がございますけれども、そんな日程の中で進めていくことでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、日程については10月末あるいは11月初旬というようなことの中で進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、開催場所についてであります。開催場所については、前回旧町単位というような形の中で場所を決めて進めてきたわけですが、今回の実施についても前回同様というふうな形の中でどうかというふうに思いますけれども、その点について、皆様方のご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 委員長の言われたとおり、前回と同様の場所でいいかと思います。

○委員長（内藤久歳君） ほかにご意見ございますか。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 変化がないですね。だから、やはり旧町という町意識から全体に甲斐市合併したわけですから、いろんな町があってもいいと思うんです。竜王地区は竜王地区で、敷島の人は敷島地区へということは、何もこちらで決める必要はないような気がするんです。自分の都合のいい日にちがあったらそこへ行くと。例えば、竜王町のときがちょうどいいしと思えばそこに行ってほしいし、双葉地区のほうでまた何か自分が都合のいい時点があればそこへ行くとというようなこと。特に竜王地区、敷島、双葉地区という地域別はいいんです

けれども、行く人が大体限られてしまうんですね。双葉は双葉のほうへ行くし……

〔「会場だ」と呼ぶ者あり〕

○委員（池神哲子君） 会場のこと言っているんですか。

○委員長（内藤久歳君） それは運営上の問題ですから、まず会場の設置について……

○委員（池神哲子君） 会場。3地区に分けるかということですね。

○委員長（内藤久歳君） そうですね。

○委員（池神哲子君） 3地区にやっぱり分けたほうがいいですかね。大体3地区に分けるとその場所に行きますよね。竜王は竜王かなと思って。

○委員長（内藤久歳君） 清水委員。

○委員（清水正二君） 今、会場のあれをしているんで、池神委員はそう言いましたけれども、現実には敷島のときにも竜王の方たちが行ったりしているんで、それはまた後のほうに出てくる周知の方法とかそういったことの中で。会場とすれば、本当はもうちょっと単位的に絞って地区を順々に回っていくというような形のほうが自分は望ましいかなと思うんですけども。なんせ1回目やっただけということで、我々の準備の中でそういう形の中でやっていて、また次のときにそういった検討を重ねていけばいいかなというふうに思います。

○委員長（内藤久歳君） ほかにございますか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 二、三回このパターンでやってみて、また判断したらいいと思います。

○委員長（内藤久歳君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） アルプス等でやりました議員がいない地域でやるという方法ですね。3地区であっても出ていないところが必ず竜王、双葉、敷島ありますから、本当はそういうところに行って、議会の活性化のために言うというのはいいかなと思うんですが、ただ、やはり場所を考えると、今回も場所を選ぶのが大変だったからなれたところがやはりいいかなと思うので、もし人があれだというのだったら、班をそのまま動かすとかという方法が考えられるので、今回は同じ形でいいかなと思います。

○委員長（内藤久歳君） それでは、開催場所については、第1回と同様な形の中で進めていきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、第1回目と同様な形の中で、開催場所については決定をしたいと思います。

なお、会場については、また後から出てきます班編成の中でございますが、その班に一任をしたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。そんな方法で進めていきます。

次に、報告内容であります。昨年実施し、参加者の意見ではテーマを決めてやってもらいたいというふうな意見が多くありました。資料にありますとおり、今後取り上げてほしいテーマについてのアンケート結果では、地域活性化についてが一番多くなっておりまして、その他、いずれも多い数字となっております。

そこで、まず初めに、今回はテーマを決めて実施するかご協議をお願いしたいと思いますので、ご意見ををお願いしたいと思います。

今度は、報告会の内容についてでございますが、第1回目ということで、議会の内容を知っていただく、本当に極めて初歩的な形の中で報告会をやったということの中で、市民から、市が抱える問題とかあるいは課題とかそういった点についてテーマを決めてやったらどうかというような意見が多かったというふうなことでございます。そこにアンケート結果として6点ほど具体的な項目が挙げてあるわけですが、その点について、どんな形で進めていったらいいか。ここ、これ非常に重要な部分でありまして、ここはしっかりと方向を定めていく必要があるかなというふうに思いますので、ご意見ををお願いしたいと思います。

猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 恐らく、ことしの2月に来てくれた方がまた足を運んでいただけるということを考えると、同じことの繰り返しはよくないということが1点と。それで、このアンケートの結果で6項目あるんですけども、一番、全てがみんなかわりますよね。ただ、一番身近に感じることは、環境・ごみ問題ぐらいが一番こういうように議会としての答弁もしやすいのではないかなと個人的には思うんですけども。大きなことで、財政全般とか、専門的なことを言っていくと、結構幅が広がっていくのが1つと。この中で見ると、僕はそういう解釈はしますけれども。特に、たまたまですけども、今回一般質問のテーマへ24時間のステーションの設置の関係で質問を入れます。敷島は今までも長い間使っている。それで双葉の庁舎にもありますね。それで、今度竜王の庁舎の一角に設置するということがあるから、それも竜王のステーションは今年度の予算で今年度内にやるということだと、ちょうど10月から11月にやると、ちょうどいい時期にそれが入るんじゃないかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○委員長（内藤久歳君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） この環境・ごみ問題。確かに24時間ステーションだけ考えればいいと思うんですが、ところが広域の問題すごく抱えていまして、今建てかえのこととかそういうことが絡んでくるので、そういう問題に発展したときにはとても回答が出せる状況じゃないんですよね。例えば、市町村のほうで今回バイオマスか何かのあれを甲斐市でやっていきますと、そういうのが明確に何かあるんだったらいいと思うんですよね。それをこう広めていくために。結構内容的には大変かなと私は思うんですけれども。やはり一番多いのからやっていったらどうなのかと。難しいですけれどもこれも、と思います。

○委員長（内藤久歳君） ほかにございますか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） この一番多い地域活性化というのをどういうニュアンスで捉えるかちょっとよくわからないんです。

○委員長（内藤久歳君） 地域活性化というのは非常に雲をつかむようなテーマで、これ全ての面に範囲が広がっていくと思うんですよね。そうすると、報告をするという意味では、的を絞りづらいテーマになってしまうというふうなことになるかなとは思いますが、そうはいってもやはりその中で重点的な、今甲斐市が抱えている問題は何かという点に絞り込みをして、その点について、では活性化につながることはどうなのかというふうなことの観点からこのテーマに向けてやっていくと。ただ、活性化ということになってしまうと、非常に難しいという部分はあると思いますね。

その点についてはどうですか。

猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 今、松井委員の言われたこと。そのとおりだと思うんですよね。それで先ほど保坂委員が言われたこと。これは先ほど言った、私の言ったことはステーションの問題を取り上げることが1つと言うことと、今の現状を、要は広域で抱えている問題を市民に知らしめるということも必要なんですよね。市民はこれを知らないから、そういうことを今から教育していくというか、市民の意識を持たせるためにも今の焼却問題、施設の問題が今後どうなっていくかということ地域で知らせることも大事なことですよ。これははっきりした答弁はできなくても、現状を伝えることと、そしてごみの減量化が主体であって、それに対して市民がどのような意識を持っているのか。それを議会としてPRする一つの手だと思うんですよね、これはね。だから、答えられないことだってあるんです、これは。だから、現状がこういうことですよということを流せば、要は広域の問題もわかれていますよね、議

員が。だから、その辺は、僕は僕の意見を言わせてもらうだけですけれども、そういう捉え方で解釈していただきたいんですけれども。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） 池神委員。

○委員（池神哲子君） 参考までに、うちの自治会なんかで問題になっているごみの問題は、ごみのゴリラかごとうちのほうは言っているんですけれども、かごがあるわけですね、かごというか割とゴリラが入るような大きなかごなんです。だからゴリラかごと言っているんですけれども、そこにごみ袋を入れるようになっているんですね。そのごみかごをどこに置くかというのが一番大きな問題になっていて、あっちやれこっちやれ、いやここじゃ嫌だとか。ちょっと置いても風が来て、例えば夜出してはいけないんですけども、夜出す人がいて、がらがらと音がするといやだからというんで、大体細かいところに終始しているというか、一番の関心はこのやり方はちゃんとゴミ袋出して、有料で、そしてその袋じゃないと持っていけないというところがあって、それは徹底していると思うんですね。長年の今までの業績の中で。ただ、そのステーションがどこに置くかというのはすごく大きな問題で、本当に回り回ってやっていたり、そのために随分いろいろとあるわけです。ですから、このごみという、私としてはそんなに限られた問題じゃなくてもうちちょっと広域な、例えば、1番のような活性化みたいなのの中からやっていくほうが広がりができるかなと考えているんですけれども。そういう意見です。

○委員長（内藤久歳君） ほかにございますか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） お聞きしたいんですが、その報告会なんですか。議会がこうやっているという報告会。対話集会なんで、私なんかは地域活性化に関しては、一般質問を一番项目的にも議員がしていますよね、大分、かなりね。それでしかもそういうことが周知しているかどうか、市民からのそういうものも一番要望が多いということで。では市民の皆さん何を考えているんでしょうかねと聞く。そういったこともあるので、これ対話だから。別に皆さんどう考えますかみたいな、そういう感じでもいいのかなとも思ったりするんですね。きょうは皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。それでまた、議会に上げてやっていきますからみたいな形でもいいわけなので、いいかなと思います。それから、もし環境・ごみ問題であれば、やはり的を絞ってごみの減量化ということでやっていくのか、それともこれからのごみ行政についてやっていくのか。それこそ、さらに環境教育とか太陽光発

電とかああいうほうにいくのかというふうに、もった的を絞れるので、それはどちらでも、どちらの課題でもできるかなと思うんですが。そうすると、対話ということに関してはどんなふうに考えていらっしゃるのかなと思いますね。報告なのか。聞くのか。いろいろあると思うんですよね。姿勢としては。

○委員長（内藤久歳君） 報告会と名乗ってありますので、一応こちらから議会としてのそういったごみ問題とかこういうものは、議会としてあるいは各議員がこのようにやっているということを一応言いますよね。そうすると、今回も今度は皆さんから意見をいただくという、両方、対話ですよ。そういう意味を含めてやっているというのが実情だと思いますから、当然もう言いつ放しではなくて、そういう中で、例えば今回もテーマを決めるということに関しては、行政ではこういうふうにはしていますと、議会でもこういうことでやっていますと。もっと言えば、議員の使命として一般質問等でやっていますと。それに対して、市民の皆さんはこの問題に対してどのように逆質問じゃないですけども、どういうふうに考えますかということが今回のアンケートの中でもいろいろ返ってくるわけじゃないですか。それを今度常任委員会へ反映して、また返していくというやりとりも一応第1回目でもやって、報告受けたものをちゃんと返しているということを重ねていくということが大きな目的じゃないかと思うんですよね。だから、そういう点に力点を置いてやはりこの対話集会を進めていくほうがいいかななんて私は個人的に思っています。だから、そういう点を含めて、このテーマをとりあえず決めて、そういうその問題に取り組んでいくというふうなことだと思いますけれども。ですから、今二、三活性化あるいは環境・ごみ問題というふうなこの6つの項目の中から、ご意見が出ているわけですけども、これはいずれにしても全てが取り組む行政全般的な問題ですから、どれもおろそかにしていいという問題ではないと思いますけれども、まずテーマ等を決めてやっていくことということに関しては、この辺の中から項目として決めていただきたいということです。

猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 恐らく、この議論を重ねると長くなりますよね。だから、委員さんの考えがみんなばらばらであることが1つ。ただ、この一番多い59人という地域の活性化。これは大きなスパンですよ、考え方がね。そうすると、この活性化の中でもテーマが幾つかつくってくれるということであれば、これを選択したっていいですよ。でも、これを広い範囲でやってしまうと、何を言われても答えなければならない、対話をしなければならない。でも、この活性化の問題の中で、3項目ほどに絞ってテーマをこの中からつくり出すということが

1つなんですよ。こうすれば一番やりいいんですよ。だから、それをもし今回数の上から行くのであれば、この活性化というものに対して、今松井委員が先ほど言われた心配だよと、わかんないよと言われたことを解決するには、この中から先ほど言ったようなテーマを絞り込んで市民に対話のテーマとして投げかけるというのが1つ。それだったいけるじゃないかと思えますけれども、いかがですかね。

○委員長（内藤久歳君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） その中で、その取り上げ方の一つの資料として議会の質問、あるいは合併以来、以降出てきたものの中でどのぐらい活性化について、名前はいいですから、何議員が出したかはいいので、どういった項目が議会の質問として議員として出しているか。それだけで足りなければ、委員会で議員の発言の中で、こういうのが活性化について出ているとか、そういうのをちょっとこうまとめていただいて、議員としてはこういうことが一番出ていると。質問として行政に対してね。それをまた皆さんで指定して絞っていくという方法はどうでしょう。絞り方の方法なんですけれどもね。

○委員長（内藤久歳君） ほかにご意見ございますか。

清水委員。

○委員（清水正二君） 自分はやはりこのアンケート結果ということであれば、やはりこれだけ多いということはそれだけの関心がある。当然、地域活性化というそういった問題点が広く大きいわけですよ。委員長言われるように、そういったものを絞り込んで、テーマを絞り込んで、その活性化の中で絞り込んで上げていくと。あと、各論については、またそれぞれがその中でもってまた絞り込んでいくというような形の中で、とりあえずテーマとしてはそこに置いていくというほうが望ましいのかなと。結果として、アンケートを出して、アンケートが59人地域活性化が出ているということは、これだけ大きい数字でもってあらわれているということ。ほかのほうに行くということになると、どうしてそういう形になるのというようなアンケート結果に対してもそうなると思うんですよ。だから、地域活性化の中で絞りこんでいったらどうかなというふうに思いますけれども。

○委員長（内藤久歳君） ほかに。

松井委員。

○委員（松井 豊君） よくまとまっていないんですが、いっそその地域活性化するにはどうしたらいいか、あなたの意見をお聞かせくださいみたいな感じで、開き直っていることになるけれども。

[発言する者あり]

○委員長（内藤久歳君） それは、今後の手法になると思うんですね。だから、きょうはテーマとしてやるのか、テーマとして何を掲げるのかというところまで決定して、あとこの活性化について、じゃ、一応対話集会やりますよという形になったら、さっきもご意見あったように、活性化についてどういう項目を絞り込んで、甲斐市が抱えている一番活性化の中で一番この問題が大きいんじゃないかということに絞り込んで、その点についてやっていくというふうな形になると思います。

じゃ、一応今回はテーマとしては地域活性化ということよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長（内藤久歳君） じゃ、今回のテーマは地域活性化についてということで対話集会を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、地域活性化ということで決めたいと思います。

次に、報告内容のテーマについてでございますが、一応冒頭、簡単に議会の仕組みとか活動している点について触れたほうがいいのか、もう直接地域活性化というふうなことのテーマに入ってしまうのか。その辺をご協議をお願いしたいと思います。

前回来た人が想定される中では、多分また来るんじゃないかなと思いますけれども、そうはいっても、また新たな参加者もいるかと思えます。その点についてさわりだけを、議会というのはこういうもんですよというような形の中でやったほうがいいのか。その辺をご協議をお願いしたいと思います。

あと、事務局から先進事例について調査をしていただいておりますので、報告をしていただいて、それを参考にしながら決めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

小澤係長。

○書記（小澤 明君） それでは、お手元のほうに南アルプスさんの例をお配りさせていただきました。南アルプスさんにつきましては、1回目につきましては甲斐市は南アルプスさんを参考に、パソコンを使いながら議会の仕組みのほうについて説明をさせていただきました。そういった形の中で、南アルプスさん2年目以降どういった形でやっているかということでまたちょっとお聞きしたところ、資料がいただけましたので、お手元のほうにお配りをしております。結果的には、南アルプスさん2年目以降につきましてもテーマを設けず、同じような形で議会の仕組み、委員会、あと当初入っていなかった予算関係等もこれを見ると入っております。あとは委員会での審査の様様。あとは各会派の活動報告というような内容が主

な構成で、あとはそれに対して市民の方たちと意見交換を行っているというような形だそうです。南アルプスさんにつきましては、甲斐市と違う点がありまして、というのは前にもご説明しましたとおり南アルプスさん、さっき保坂委員さんもおっしゃられましたけれども、議員さんが出ていない区域を中心に回っているということもありまして、また違う方が住民の方が来るということも前提にあるかと思えます。そういった形の中で、改めて議会の仕組みから説明する中で、市民との意見交換を行っているというような形で行って、ことしが3年目になるようでございます。

あと、前回甲斐市参考にさせていただいたのが韮崎市さんになります。韮崎市さんにつきましては、昨年度の状況でございますが、8月末に実施を5カ所でやったそうです。韮崎市につきましては、学校区ごとで行っております。7月に常任委員会の研修を韮崎市は行ったそうです。韮崎市の場合は、常任委員会全員で視察を行ったそうです、去年は。昨年全員で行ったんで、その視察研修の報告及び昨年度議会改革、結果的には基本条例まで作成までいったんですけれども、その中間報告をその対話集会、報告会の中で行ったそうでございます。

ことしにつきましては、基本条例ができましたんで、その報告と予算、決算の説明を予定しておるということで、あと、今考えていることということで、先ほど言ったように学校区ごとでやっています、自治会長さんたちのまとまりがあるところでやっていますんで、その自治会長さんたちにテーマを決めてやるのも一つの方法かなということで、今年度は考えているということでお聞きをしております。

以上でございます。

○委員長（内藤久歳君） 今の先進地の事例を参考までに報告させていただきました。これらを踏まえて、先ほどの件についてご協議をお願いしたいと思いますけれども。

アルプスとはちょっと今我々がやっているのとは内容が違うということで、議員がいない地域を巡回しているというふうな対話集会のようでございます。その点を踏まえて、今回先に議会の仕組み等について軽く触れてやるかどうか。その辺のご意見をお願いしたいと思います。

猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） ちょっと聞きたいのは、この資料は南アルプスは参加者に配布するんですかね。それを事務局に聞きたい。それまでわかる。

○委員長（内藤久歳君） 小澤係長。

○書記（小澤 明君） はっきり確認しておりませんが、多分配っていないんだと思

ます。アンケートのほうは行っているということで、アンケートいただいておりますけれども。多分、これはパソコンだけでやっていると思います。

○委員長（内藤久歳君） 猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） そうすると、前回参加してくれた人に同じことの説明、多少は変わってくると思うんですね。時期もずれば構成も変わると。内容も変わりますよね。そうすると、また同じ説明を30分もする必要ないということと、初めて来た人には失礼に当たるかなということがあるんですけれどもね。このレジュメがある程度簡素化できて、参加者に配付できる、議会の仕組みからある程度のことでいいから内容を読み上げて30分も説明するほどの資料は要らないと思うんですよね。ただ、それを開催するに当たって、前回参加してくれた人にはこういう説明してありますけれども、きょう新たに来てくれた人はこの資料で説明とさせてもらう。そういうやり方もあると思うんですよ。だから、もうちょっと時間を30分もかけずに説明が例えばできるのであれば、繰り返しでもいいかなと思うんですけれども、同じことを聞いたって恐らく再度来た参加者に対してはよくないと思うし。その分ほかのことに時間を、対話集会の内容のほうへ時間をとったほうがいいと。だから、その辺はこの資料が多少なりしも配られれば、これは別に新しく来た人にも失礼もないと思うし、前回来てくれた人にも失礼がないということを感じますけれども、いかがでしょうかね。意見として。

○委員長（内藤久歳君） ほかにございますか。

清水委員。

○委員（清水正二君） 先ほども言われたように、南アルプスの場合とうちの場合というのは、南アルプスの場合にはある程度いないところというところで、また新たな対象としてその対話集会をやっているわけですね。うちの場合には会場としても同じ会場というふうな形の中で、当然新しい人も来るわけですが、何せ聞いた中でもそういう議会のいろいろの仕組みとかそれをやったんだけど、そういうことよりももっと中身のことが知りたいというふうなお話もありました。1回説明をしているんで、その中でさわりだけというか、そういうふうな形で、あとは中もって会派ごとに、自分たちの会派の中でその会派のことをどういうふうにしているかということのを会派ごとにやっていったら、またそれも一つの新鮮な材料になるかなというふうに思うんですけれども。

○委員長（内藤久歳君） ほかにございますか。

保坂委員。

- 委員（保坂芳子君） お聞きしますが、これは会場でDVDでやったか何かのものですか。
- 委員長（内藤久歳君） 小澤係長。
- 書記（小澤 明君） 甲斐市と同じように、パソコンを使ったパワーポイントの原稿になっています。
- 委員長（内藤久歳君） 保坂委員。
- 委員（保坂芳子君） これは何分くらいかわからないですが、写真が多くていいなど。ただ、文字じゃなくて写真だけだったら結構早くさささと進むかなと思うので、写真で大変かもしれませんが、やるんだったら時間が10分とかで終わるのかななんて思って。それもいいかなと思いますけれども。
- 委員長（内藤久歳君） 小澤係長。
- 書記（小澤 明君） 皆さんお配りしてごらんになってわかるとおり、やはり南アルプスさんも、当初1年目のときに比べれば説明が大分省略されて、今言うように写真も多くなっているような形で改善がされているように拝見しています。
- 委員長（内藤久歳君） 保坂委員。
- 委員（保坂芳子君） 何分かは聞いていないんですよね。時間は。
- 委員長（内藤久歳君） 小澤係長。
- 書記（小澤 明君） 時間まではちょっと確認しておりません。
- 委員長（内藤久歳君） ですから、基本的に前回にやった内容、例えば議会の仕組み、設置、役割と仕事、議員数以外の構成、委員会の内容、会派の構成、政務活動費報告というふうなことを事細かくやってあるんですけれども、そうはいつでも、議会としての骨格といいますか、そういうような、例えば、来た人が定数は知らないとか、例えば議員報酬とかそういう点について年に4回定例会をやっていきますとか、その辺の基本的な部分については、5分ぐらいで説明をして、あとは本題に入るというふうな流れもいいかなとも思うんですよね。ですから、最初に全く議会に関する説明を省いて、いきなりテーマに入るのか。さわりで議会としてはこんなものですよということを説明して、それから入るのかということで、基本的には前回と同じということは、前回と同じように時間をかけてパワーポイントで説明をしてやるということと、それを、今協議をお願いしたいと思います。全く要らないのか、今私が言ったように、ちょっとさわりだけを5分か二、三分で説明をして、議会とはこういうものですよということを説明してテーマに入るのか。その3点について決定をしていきたいというふうに思います。

藤原議長。

○議長（藤原正夫君） 今委員長の説明のあった、前回この仕組みだけで1時間ぐらい、約半分ぐらいは時間が持っていかれたような気がします。ですから、今委員長が言いますように、ある程度の1から8まであるうちのある程度のところを抜粋してノミネートして、そうはいつでも10分か5分か幾らぐらいはどうかということですが、私もそんなふうにしたら、まるっきりやらないわけにはいかなくて、その点だけ、かいつまんだところだけ抜粋しておいて、5分ぐらいの説明をして入ったらどうかと。これちょっと私からの意見としてちょっと聞いて下さい。

○委員長（内藤久歳君） 山本委員。

○委員（山本今朝雄君） 今議長の言われたとおり、確かに対話集会しましても、初めての方も今回お見えになると思いますね。ですから、議会の仕組みを全然説明しないとわからない方もあると思いますので、今言われたように、さわりとといいますか、ある程度簡単に議会の仕組みを流してもらって、そしてこの資料なんかはA4か何かに簡単に何かリーフレットみたいに資料をつくれませんか。そうして、来た方には資料を皆さんにとっていただいで見てもらうと。そういう資料を皆さんに手元に置いてもらうのも一つの方法かと思いますね。

○委員長（内藤久歳君） いかがですか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 資料を渡すということと、パワーポイントで見せるということと、どっちがいいかなと思って。

やるということと、時間を短縮してやるということですね。いいと思うんですが、どういう形でやるかということですよ。簡単にとくと簡単に。どうなんですかね、渡すということは別に。渡したほうが結局事務局の方にはかなり、こちらがやると言ってもお世話になってしまうので。何てそんなこと最初から言っただけいけないんですけれども。

○委員長（内藤久歳君） 保坂議員の質問に対して。

小澤係長。

○書記（小澤 明君） 資料の印刷については、当然コピーと印刷、コピー代、印刷代がかかってまいります。そこで、会場によるのと人数によりまして、人数をどの程度読むのかによってどの程度印刷していいのかというのがあると思うんですよ。たくさん刷って、それがまるっきし1年しか使えない資料だと思いますので、その辺を見ながら用意はしなけ

ればならないかと思うんですけれども。その辺無駄に、どの辺人数を読むかによってその紙の資料を用意する枚数が必要となってきます。パソコンでやるのであれば、その辺当然経費はかかってこないですね。特に、こういった形の資料であれば、現状の配当予算の中で、たくさん大きな会場になってしまうと、また金額がどの程度になるかというのは計算みないとですけれども、その辺との兼ね合いは出てくることだけ承知はしていただきたいと思えます。

○委員長（内藤久歳君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 例えば、見ていただくために写真を多くしたいと。やっぱりカラーがいいよねと。そうするとまた大変ですよ。であれば、大変だけれども、パワーポイントでカラーを見せて、その場で済んでしまうからそれでいいかなと。それで短くするというのいいかななんて思いますけれども。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） 清水委員。

○委員（清水正二君） 今、その他の中のこれを絞り込むのにどうしていくかということのあれなんですけれども、資料とすればこの前やったときの2月にやったときの中でもやはりある程度こんなに資料をつけてあっても、要点というかそういうものだけで、そのためにパワーポイントがあるわけですから、同じようなものをつくらなくてもいいと思うんです。数なんだけれども、先にやっていきますから、ある程度後の分のは先にやってもそれがもし残ればもあるし、足りなければ前の分を持ってきてもいいわけですから、そういうふうなことはない。ただ、周知の方法で、この前はあれですよ、なるべく市民の意思というかそういうものの中のものでやるということでもってやりました。今度は、数が少なければ積極的に議員のほうから呼びかけてやるといえば、やはりそれなりにふえると思うんです。そういったものも出てくるので、今のところは議会の仕組みから8番まである政務活動報告まで全部やるか、それを絞り込んでやっていくかということで、ある程度絞り込んでやっていくほうがいいかと思えますけれども。

○委員長（内藤久歳君） 池神委員。

○委員（池神哲子君） 今話を聞いていまして、結局そのこういう資料を前回やった資料をちゃんと出すということもそれは親切でいいんですけれども、そうしますと、2回目に市民対話集会に来られた方に、きょうは何が今回のテーマかというのがぼけてしまうような気がするんです。やはりこれは資料として、ただこんなことをやったんですよぐらいなことに

しておかないと、2回目の地域の活性化というテーマを主に今回、今度はやるわけですよね。ですから、地域の活性化のテーマについての資料を少し出すならいいんですけども、こちらのほうには重点を余り置かなくていいと思うんです。ただ、こんなことやりました程度のことはちょっとした形で報告されればいいし、これだけの冊子みたいにして出すと、こちらがきょうのテーマなのかなということ勘違いしてしまうし。やはり絞られないなという気がするんですね。2回目ですから、地域の活性化のことについてみんなで話し合いをしようということになっていったほうがいいので、余りこの前回の資料に重きを置かないほうがいいなとそういう感じがしました。

○委員長（内藤久歳君） それでは、この件については議会の仕組みについて重要なポイントだけを軽く流してやるということで。伝達方法についてはパワーポイントを使うということで行きたいと思いますが、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） じゃ、そんな方法でこのその他のアンケート結果を含めてその他の点の報告については、そういう方向で進めていきたいとしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、班編成、班構成についてありますが、一部議長の交代に伴い変更してありますけれども、それ以外は昨年と同様の班構成の案となっておりますけれども、編成についてはいかがでしょうか。ご意見をお伺ひしたいと思います。

猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 今回で2回目となるということと、来期また改選等もありますから、ここでいじらずもう一回継続という形で、もう一回このメンバーでやったらどうですかね。

○委員長（内藤久歳君） ほかにご意見ございますか。

〔「いいと思います」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） よろしいですか。

それでは、班編成については前回同様ということで、一部変更についてはそのところに入っただけというふうなことで決定をしたいと思います。

次に、役割分担でございますが、昨年と同じ内容になっております。この役割についても、こういうことは役割をつくったほうがいいのではないかと、第1回目を踏まえてですね…

…

〔「ごめんなさい、うっかりしていました」と呼ぶ者あり〕

○委員（池神哲子君） 班編成というのは、非常に大切な部分だと思います。別に自分の地区だからどうのこうのではないんですけども、これは回ったほうがいいような気がするんですけども。

[発言する者あり]

○委員（池神哲子君） メンバーを。

[発言する者あり]

○委員（池神哲子君） 竜王地区、敷島地区、双葉地区というふうに主にこうなっていますよね。だから、このやり方をもう少し回したほうがいいかなという気がするんですけども。いかがですか。

[「地区をローテーション」と呼ぶ者あり]

○委員（池神哲子君） ええ、そうです。

[発言する者あり]

○委員長（内藤久歳君） 今のご意見ですと……

○委員（池神哲子君） 中身をね。中身の構成というのは……

[発言する者あり]

○委員（池神哲子君） 例えば、1班が竜王地区ですよね。2班が敷島地区、3班が双葉地区となっていますよね。そうすると、その地区、地区だといろんな人がまざっているということになってはいないですよ、これね。大体、敷島は敷島、竜王は竜王、双葉は双葉となっていて……

○委員長（内藤久歳君） 基本的に、この地区ということもありますけれども、この班編成を編成した一番の基本的な考え方は、常任委員会のバランスを見て配置をしました。基本的にね、常任委員会。それは、市民から出た意見を各常任委員会のメンバーが同じ割合で各地域に配分できるようにということで、配分をしたのが基本的な部分でございます。

そして、もう1点は、やはり今回2回目ですから、できればもう一回ぐらいはこの期で我々が議会改革取り組んできた中で、初めてやった対話集会ということで、あと1回ぐらいは同じメンバーで同じ地域でやって手がためをして、次の議会でもまた新たな考え方の中でやっていくというふうなことが、私としては望ましいかなというふうに思っています。

その点についてはどうでしょうか。

○委員（池神哲子君） はい。でも、定例会のように1年に4回あるわけではないし、この対話集会が1年間に1回か2回の問題ですよ。ですから、そんなにしょっちゅうあるんだっ

たらいいんですけれども、1回か2回の中では、やはりこの班編成はすごく大事だと思うんですね。だから、同じところに行くのではなくて、また編成を変えていくということでやり直したほうがいいのかと私は思いますけれども。

○委員長（内藤久歳君） 猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 先ほどから言っている、まだ2回目ですよ。議員もしっかりした体制ができていないのに、今いじる必要はない。だから、あと1回ぐらい繰り返して、再度次やっていくときはローテーションをして構成も考えてやるべき。実際100%オーケーだという解釈はない。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） 清水委員。

○委員（清水正二君） 先ほど班のあれに戻ったんですけれども、この班を決めるときに、いわゆる委員会構成の中でそのバランスを保ってやっていることなんで、こういう形でいいかと思います。猪股委員言われるように、2回目と、1回やってまだ2回目だということの中でやっていくわけですから、そういう形の中でやっていくほうが望ましいかというふうに思います。

○委員（池神哲子君） 4年で議員の選挙があつて変わっていくわけですよ。そうしますと、ことしでもう終わりというか、3月までの私たちの任期ですよ。次の任期はこういうことをやるかどうか分からないし、また新しい形でやるかのかも分からない。そうすると、私たちが責任を持ってずっとできるのは3月までだということだと、1年、もうあとこれでおしまいかもしれないしというようなことになれば、次はというものは無いと思うんですね。ですから、このメンバーがずっとやっていくということだったらそれでいいんですけれども、あと3年あるとかというわけではなくて、あと1年足らずの中で、何カ月の中で勝負だなというふうに思うんですね。そのとき考えると、やはり甲斐市が一体となっていくんだらば、メンバーはいろんなところで編成したほうがいいのかと。1回1回変えてもいいんじゃないかなとそんな感じがしたんですけれども。

○委員長（内藤久歳君） 猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 一番心配されるのは議会のあり方、議員の対応の仕方、これが確実ではないということを僕は心配して、あと1回は同じ形を組んだほうがいいのかという形なんです。これは池神委員の言うことも十分わかりますけれども、二度目ということはまだ1回しかやっていないということですから、まだそれを確実なものにするためにも、あと1回同じ場所

でしっかり組んでやって、次の段階では、じゃ、それも来年からは時期は1年に2回やりましょうか。先ほどもみたいにやらないかもしれない。でも1年に2回やる可能性もあるでしょう。ということです。そのために、今回はもう一度同じ地盤で同じメンバーでもう一回やりましょうやということです。

○委員長（内藤久歳君） それに関連した部分ですけれども、今回班編成を見たときに、違う地区へ行っている議員は比較的少ないんですよ。それで、そういうことも含めて、やはり地域のことは、例えば住民が来たときに地域のことはまるっきり入れかわってしまったら、地域話題を出されたときに答えられない、話題に触れられない、地域の様子もよくわからないという現実が出てくるんですよ。だから、そういうことも踏まえて、常任委員会を基本にやったんだけど、今回も最終的にはそういった配置になったんですよ。基本的に。だから、そういうことも含めて、今回は前回と同じ方向でいったほうがいいのではないかなというふうな、私もそういう考えでいますし、今猪股委員が言ったようにそういった形でやっていくのが望ましいかなというふうには思っています。

そんな方向でよろしいでしょうか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） ちょっとこれ聞きたいんですが、そうすれば竜王に行ったときは竜王の地域活性化。敷島に行ったときは敷島の地域活性化。そういう形でいくんでしょうかね。それとも、甲斐市としての活性化ということで、同じものを各会場で提供すると。ただ、向こうから出てくるものは、それは地域の活性なんで地域の問題だと思うんですよ。だけれども、こちらから提供するのは同じものということがあればいいかな。どうしても、竜王の方多いから、人数が。どうしても行かざるを得ないんですよ。どうしても嫌だということであれば、中でこうやるかですよ。竜王の人同士で。

〔発言する者あり〕

○委員（保坂芳子君） じゃ、いいですか。

○委員長（内藤久歳君） それはね、常任委員会で皆さん代表で来て決定したことから、そのことをまた持ち帰って内輪でどうのこうのということは、この活性化委員会の権威にかかわる問題ですから、それは決定したことは決定したことで進めていただかないと。これ原理原則です。そんなことでお願いしたいと思います。よろしいですか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 一応それでいいと思います。委員会の数で整理してあるし、それなり

に工夫はしてあると思うんで。我々もまた市全体の議員でもありますから、どうしてもきっちりめ込むというのは無理があるんで、これでいいと思います。

○委員長（内藤久歳君） 清水委員。

○委員（清水正二君） 松井委員言われるように、議会改革をうたっているわけですから、議員というのはもちろん地域の代表でもあるけれども、議会として、市議会の全体のものであります。そういったものでないと、議会改革といった意味というのは、地域、地域なんて言ってそれやっていたら、議会改革というものは何ぞやということになる。やはり委員長言われるように、これ権威とそういうふうにしたものは権威という中でもってやっていかないと、これおかしなものになると思いますね。ですから、そういう形でいいと思います。

○委員長（内藤久歳君） それでは、班編成、構成については、前回と同様ということで決定させていただきます。

次に、役割分担ですけれども、これも昨年と同じ内容で提案をさせていただいております。これについてもご意見をお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。昨年と同様でよろしいですか。

[発言する者あり]

○委員長（内藤久歳君） 役割分担。

新たにこういう役割をつくったほうがいいんじゃないかとそういった……

○議長（藤原正夫君） これは各編成ですね。編成でその班でまた内々で話で話し合いをして決めたらどうかと思いますね。

○委員長（内藤久歳君） そうですね。

それでは、班の、例えば担当の異動があるかもしれませんが、そういった役割分担については班の中で決定をしていただくというふうなことで、お願いをしたいと思います。そのように決定したいと思います。

次に、開催に当たってであります、これらも昨年と同様の内容となっております。ご意見をお願いしたいと思います。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） どうなんですかね。この間の結集の内容なんですが、大体各自治会から1名というのは、何割ぐらいが来てくれたんでしょうかね。自治会。それはとっていないですかね。

○委員長（内藤久歳君） それは……

○委員（保坂芳子君） とってないですかね。自治会別とかなんかで。

○委員長（内藤久歳君） 小澤係長。

○書記（小澤 明君） 自治会名は書いてあるんですけども、区長さんかどうかまではちょっと確認をしてなくて……

〔発言する者あり〕

○書記（小澤 明君） そこまでの集計はしていません。

○委員長（内藤久歳君） やればできるね。

○書記（小澤 明君） やれます。

○委員長（内藤久歳君） 猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） この会場へ来てもらうのは、今自治会の役員さんを強制ではなくて半お願いをしてきてもらうのと、意見を言いたくて来ている人がいるんですよ。自治会なんて云々関係なく。本来、要素は両方とも大事なことから受け入れは十分しなければならんということですけども、今までどおり要請はかけるということと、前は議員のほうから実数をつかみたくて、議員が率先して呼びかけをしなくて1回実数をつかみましょうと結果がああ数字なんです。だから、これを解釈した中で、もし広くうたうであれば議員が今度呼びかけることをこれにプラスすればそれでいいじゃないですかね。

○委員長（内藤久歳君） 小澤係長。

○書記（小澤 明君） 先ほどの自治会の数はわかりませんが、回覧板を見てきたという方が28人アンケートの結果ございまして、回覧板を見てきた人は全体の23%の方が回覧板を見てきていますので。一番多いのが広報の43%、53人に次ぐ2番目ですんで、回覧板で周知していただいた効果はあったかと思えます。

○委員長（内藤久歳君） 周知方法についての結果の報告がありました。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） その回覧板で回しましたよね。結果は広報でしたっけ、議会だよりでいろんなこんな結果出したんですよ。回覧では回せないんですかね、例えば。今回のお知らせのときには回すということですね、また。その回すときに、回覧でまたもう一回もしそのやるときに、回すときに、ありがとうございますということで、少しはそういう結果も回して入れて回覧しますか。

〔発言する者あり〕

○委員（保坂芳子君） だから、やらないか。ですね、そこまでね。二十何人だから。

強制はできないということですね。例えば各組必ず1名は参加してくださいと。

[発言する者あり]

○委員長（内藤久歳君） 多分、あれだと思いますね、この開催に当たっての手法ですよ。どういった形で周知するかということで、1回目についてはこういう内容でやりましたと。ですから、今回についてもこういう方法でいいのか。今言ったように、次の項目にも出てくるんですけども、これあくまでも1回目のことですから、2回目についてはどういう方法で周知していくのか。だから、先ほど言ったように、前回の全員協議会の一部意見がございました。その議員も積極的に呼びかけるべきではないかというふうなご意見もありました。そのときに、改選に当たって、その3番として議会も議員も積極的に参加を呼びかけるというふうなことを盛り込むのか。あるいは今までどおり今回とやるのか。その点についてご協議をお願いしたいということです。

猪股委員。

○委員（猪股尚彦君） 繰り返しですみませんが、やり方としては先ほど言ったように議員がもうちょっと招集というか、お願いをして来てもらうということと、人数の関係は今回だって実数をうたっただけで、じゃ、40人のうち本当にさらにこういうふうに意識を持って来てくれた人。あとは市役所の職員が来て見に来た人。考えると、じゃ、それはいいのかどうなのか考えると、もうちょっとフリーでこういうふうに意見を言ってくれるような人を来てもらうことが大事であって、先ほど来、自治会から1人ずつ要請して来てもらうなんてことはいい結果じゃない。その辺をよく解釈してもらわないと、この本来やる意味がどういうものなのかということを考えると、呼びかけをある程度しましょうやと、議会も。その程度でいいんじゃないですか。今までどおりと。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） というご意見がありますけれども、いかがですか。

清水委員。

○委員（清水正二君） 猪股議員言われるように、そういう形でいいかと思うんですよね。というのは、ある程度積極的にやるのではなくて、フリーな形で呼びかけていくほうがいいかと思うんですよね。自治会の話が出ましたけれども、回覧とかそういう、自治会も内情のところ配りものがたくさんになってやると、区長さん方非常に苦情を言っているわけですね。配りものをもっと少なくできないかと。もちろん、お願いする立場なんで、余り何回もやれば今度自分たちのことは自分たちでやれという形になりますんで、周知はそういう形でいい

と思います。

参加者数見ても、もうちょっと欲しいということであれば、ある程度我々がフリーな感覚の中で呼びかけていく方法がいいかと思います。この前みたいに、ある程度そういう何ていうんですか、議会改革特別委員会のほうでもって、積極的にはそれをしないようにというふうな形でなくて、フリーな形でいいかと思うんですけれども。

○委員長（内藤久歳君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 私は回覧はまたやっていただけるといいなと。二十何人来たので。そして、要するに今の私たちがやっているのは、確かにフリーな形なんだけれども、意識があってくる方はちょっとしたことで来てくれる。それから、自治会長さんも自分の役割だと思って来てくれる方も多いと。だけれども、もうちょっと強く言ってくれば聞いてみようかなとか、その新しいところですよ。関心がないわけじゃないけれども、なかなかあんなところ行けないのよねみたいな。そう人っていうのもいっぱいいるわけです。そういう人たちに聞いてもらって議会に関心持ってもらいたいわけですよ。気持ちとしてはすごい私たち積極的にこれやるわけですよ。だってどっちでもいいんだったら、こんな大変なことやらないほうがいいじゃないですか。やるんだから、やる以上はその結集の数じゃなくて、いろんな階層の人とかそういう人たちにやはり積極的にもうちょっと何とか緻密にこの人が来て、こういう団体層が来ているとか来ていないとかということもやはり大事で、私はそういうところを結集とはやはり、ただやって気持ちのある人だけ来てやってくればいいという考えじゃないですね。やはりできるだけ多くの今まで来たことのないような人にも来てもらいたいという、ふやすにはどうしたらいいかということを考えますね。ただ、今回はすごい日にちも足りないので、先ほど猪股さん言っているように、議員がやはり率先して連れてきましょうよというふうにはちょっと言うなり、入れるかどうかわからないですけれども、その意識で全員がやはりやったほうがいいかなというふうに思います。

○委員長（内藤久歳君） ですから、今ご意見が何点か出ていますよね。開催に当たってということで、前回の議会としての周知方法というのはこういう方法をとってきましたということの中で、今保坂委員が言われましたように、やはり議員として積極的に参加を啓蒙するというふうな形の中で、この特別委員会で決定したものを議会としてこの対話集会に対して進めていくのか、あるいは今回これでいいのか。その点の結論を出してここに入れ込んでちゃんとした形で要綱として示すということだと思っておりますよね。ですから、その辺をしっかりと議論をしてまとめていきたいと思っております。

その辺についてはいかがですか。

山本委員。

○委員（山本今朝雄君） 文章ですね。開催に当たっての文章を私は前のこの①、②にありますように、この文章で内容はいいと思いますね。あとは各議員さんがいろいろな機会を利用して皆さんに周知するとか。それは、前は自然体ということだったんですけども、これは今回はそれ以上により多くの人に参加してもらうために、議員さんが積極的に周知をするということ。ですから、文章としては私はこの前回の文章でいいかと思います。

○委員長（内藤久歳君） というご意見ですけども、ほかにありますか。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） じゃ、開催については、ここに示してあるとおりで今回の議会を進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

次に、6番の市民への周知方法であります。こちらが昨年と同様の内容になっております。ただし、前回は会場等の都合から議員が積極的に周知しなかったことについても、もっと議員も周知を行ったほうがよいというふうなご意見もあったところがございます。先ほどの件にも関連すると思っておりますけれども、この点についてもご意見をお願いしたいと思います。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 一応内容としてはこれでいいんですが、反省の中で出た若い人が余りにも少ないということが、どういう原因なのかよくわからないんですけども、何か少しふやす工夫というのはあるのかなのかについてちょっと。

○委員長（内藤久歳君） 若い人の、若年層の参加ですね。

それは、こういったことにかかわらず、要するに政治に関心がないという、これは今の日本の政治というかこういう社会の現象だと思うんですよね。ですから、その点についてここで妙案があるかといってもなかなか難しい部分がありますので、先ほどの件に戻ってしまいますけれども、そういった観点から、やはり議員みずから若い人にも声をかけて参加を集うというふうなことしか、特別若い人向けのパンフレットをつくらうとかいうわけにもいかないと思っておりますけれどもね。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 例えば、毎年成人の式の実行委員会というのがありますよね。例えば実行委員会やるわけですよね。そういうところに招待状みたいなを出すのはまずいですか

ね。議会としては。

〔「招待状」と呼ぶ者あり〕

○委員（保坂芳子君） 招待状というか案内状とか。招待状といたらおかしいか。案内状です。そんなものはだめですかね。

○委員長（内藤久歳君） その辺については、生涯学習等の関連も出てきますよね。

○委員（保坂芳子君） 議会なんでまずいか。いや、わからないですけども。どうなんですかね。

○委員長（内藤久歳君） だから、そういう点で議会としてそういう点でアクションを起こすとすれば、議会がみずからその場をかりてパンフレット配るなりなんなりして、そういう姿勢を示すというようなことも一つの方法かもしれませんね。ほかのところにやるんじゃないかと、議員がそこで配るというふうなことも一つの手法として。これはこの対話集会ということではなくて、議会に関心をもっているという意味でそういうことも含めて、甲斐市議会というものをPRするパンフレットを配るとか、そういうふうなことも一つの案かもしれませんね。

その辺については、どうですか、事務局。だから成人式のときにそうった対話集会のパンフレットとか……

〔発言する者あり〕

○委員長（内藤久歳君） 実行委員会に。

〔「来年の成人式の実行委員会」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） でも、実行委員会は10人ぐらいしかいないじゃんね。その人たちはもう開催するときは1月で終わっちゃって、アナウンスはできないですよ。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） だから、実行委員会のメンバーにということですよ。ことしはこういうのがあって、そういうのに関心持ってもらって、できればそういう自分が呼ぶ中にも政治に関心を持ちましょうとか入れてもらえるといいなとか思うんですが。ただ、成人式の人にその案内状を出すというのはまずいんでしょうね。どうなんですかね。

〔「案内状」と呼ぶ者あり〕

○委員（保坂芳子君） やるというのはね。

〔発言する者あり〕

○委員（保坂芳子君） うん、だからそれはできないのかな。実行委員会ぐらいですよ。

[発言する者あり]

○委員長（内藤久歳君） 小澤係長。

○書記（小澤 明君） 実行委員会ですんで、当然1月の成人式ですんで、このくらいには実行委員会は立ち上がっているかと思うんですけども。ただ、各学校何人ずつぐらいだと思うんですよね。中学、高校ですんで、2人ずつで10人、3人ずつでっていうと15。そういう数かと思えますけれども。

○委員（保坂芳子君） そういったところから始まって、成人式の中でもこういうことを実はやったんだけど、こういうことにも今後大人になったらもっと関心皆さん持ちましょうよとかいうようなことをアピールしてもらえればいいかなと思って。ちょっとそれがいいかどうかわからないんですが。そういうこともちょっと思いました。

○委員長（内藤久歳君） 池神委員。

○委員（池神哲子君） 今保坂委員の意見に賛成です。成人式になると、たしか何か見せてくれますよね。甲斐市の中のいろんな行事だとかそういうところもあるわけですよね。その中で、やはり成人になったんだから、少しいろいろな議会だとか政治だとかそういうものに関心を持って頑張ってくださいというアピールは必要だと思うんです。ですから、市民に開かれた対話集会をやっていますのでというような案内みたいな形で、宣伝でしょうか、そんなことを1行でも2行でも入れていただいて、こういうことやりますから、そういうときにはぜひ参加してくださいみたいな呼びかけは、私はいいかなと、いい考えだなと思ったんですけども。参考にしてほしいなと思います。

○委員長（内藤久歳君） 小澤係長。

○書記（小澤 明君） 今生涯学習のほうに確認したところ、10月ぐらいに実行委員会を立ち上げてまして、人数的にはやはり10人前後だそうです。

○委員長（内藤久歳君） それは若年層への関心を持ってもらうという観点から、そういう努力もしていく必要はあるかなというふうに思いますので、これについては、また班編成が決まって広報とか、その点のところでもた協議をしてもらうということではいかがですか。基本的には若年層に対する参加の向上について少し考えてもらうというふうなことで、お願いをしたいと思います。そんなことでよろしいでしょうか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） もし、できたら10月に発足するのであれば、その中の代表だけでもちょっと来てもらうとか、または成人式のときに、地域活性化に関して何か皆さんのご意見を

というのを成人者にアンケート調査できれば、成人式の日がいいかなと。そういうものを、まだちょっとできるかどうかわからないですよ、ただ単に考えているだけなんで。そういうのをアンケート調査じゃないけれども、こういうことも今回は成人式のときもとりましたけれども、こういう結果も出ていますと。このときじゃないけれどもね、対話集会じゃないけれども、そこから派生して1月にやって、そのときにもそんなにたくさん出ないと思うけれども、でもこんなことを成人の人は考えていますということで、まとめるときにそういうのもちょっと入れれば少しは広がるかな。議会だよりもそんなことが載れば、若い人もこんなこと考えているのかと。少しは新鮮なことかな。そういうことってないですもんね。ほかにね。ないので、機会もないので、このチャンスは本当ワンチャンスみたいな感じがしますけれども。できたらいいなと思いますけれども。

以上です。すみません。

○委員長（内藤久歳君） そのご意見を参考にして取り組んでいくということでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） 次に、議会と市民の対話集会の進め方についてであります。まず、議会と市民の対話集会の時間は、昨年と同様に2時間程度をめどとするということではよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、2時間程度をめどにするということでは決定したいと思います。

あと、内容についてはどうですか。次第、2番。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、内容については次第の進行上の問題についてはこのとおりとしていきたいと思えます。

次に、アンケートの実施についてであります。今年度も引き続き行うか、それとも昨年やっているので行わないでもいいのではないかとこのふうなこともありますので、皆様のご意見をお願いしたいと思います。

池神委員。

○委員（池神哲子君） やはりそこで意見を言わなくても、思っていることはあると思えます

で、アンケートは必要だと思います。

○委員長（内藤久歳君） ほかにご意見ございますか。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、アンケートを実施することで決定をしたいと思います。

次に、9番の全員協議会への報告であります。これらの内容を議員全員に周知し、実施に向けて議員全員で取り組んでいかなければなりません。そのため、全員協議会において報告し、了解を得る必要があります。内容について事務局より説明をお願いいたします。

小澤係長。

○書記（小澤 明君） お手元の資料9番になりますけれども、6月の定例会最終日になりますけれども、6月28日金曜日、本会議が終了した後にこちらの会場で本日の決定していただいた内容、こちらの実施要綱についての報告。また、昨年と同様に各班により分かれていただいて、班長の互選。また、その後係別に分かれていただいて、係ごとの日程の打ち合わせを予定しております。よろしく申し上げます。

以上でございます。

○委員長（内藤久歳君） 開催までの予定ということで、そこに工程表が示されておりますけれども、今後の予定についてはこんな方向で進めていくことを全協の中でお示しをしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

何かご意見がありましたらお伺いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、こんな内容で報告をしたいと思いますので、よろしくお伺いしたいと思います。

2番、その他、委員より何かご意見ありましたらお伺いしたいと思います。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 市民対話集会は皆さんにとってとっても大切なものだということであるわけですが、この前意見、提案とか皆さんにも伺ったと思うんですね。そのときにいろんな意見を出してくれたわけです。出席された方が。例えば竜王町の竜王活性化を積極的にしてほしいとか、あるいは地域ブランドで里芋を積極的にとか非常に具体的な問題や、タクシーに連絡するときにファクスが欲しいとか、耳の聞こえない人からの要望があったり、

例えば地方債を減らす計画とその進捗と課題についてとかということで、もっともっと開催してほしいと、こういうことはとってもよかったという言葉と同じように、具体的なこういう質問の内容があったわけです。その質問の場合について、どんなふうにお答えしていくのか。ただ向こうも言いつ放しじゃ2回目だって同じじゃないかと。一方通行じゃしようがないということだったら、またこの信頼度もあると思うんですね。やはり来ていただいて、意見を言ってもらったんですから、それなりに行政のほうとしても、これだけやってみただけでも、これはできるけれども、これはまだこれからの今後の課題だとかという回答が必要かなと思うんですけれども、そのあたりについてはどういうふうにするのかなというふうに思うんですけれども。

○委員長（内藤久歳君） その件につきましては、皆さんから出た意見を記録係の人から全部記録していただきまして、この会議の席上でこの件についてはどういう対応をするのかとことで、全部まとめました。それにインターネットに載せる部分、それから、常任委員会で協議をして報告する部分、既に各常任委員会で検討させていただいております。そういう流れでこの対話集会に対して市民の意見に対してやっています。今言われたように、個別の案件に関しては、やはり議員個人もそういうところへ行って、これ対話集会に出てきた意見を全てやるんじゃなくて、そういうところはやはり自分の個人の意見としてそういうものを市民に伝えていくということも、これも必要なことだと思いますので、ですから出た意見を全て返すというふうなことは非常に難しい部分もあると思います。そういう意味において、この場で皆さんにご協議いただいて、この問題についてはどうするというふうなことを協議いただいているんですよ。それで各常任委員会でやっていたというふうなことで進めていますので、まるっきりそういった市民の来た人のご意見に対してまるっきり無視をしているとかまるっきり対応していないということはないとは思いますがけれども。

どうぞ。

○委員（池神哲子君） 私、別に無視をしているとかそういうふうなことを言ったわけじゃなくて、今後進め方として、対話集会が信頼をされていくためには、1回言ったけれどもただ何だかよくわからなかったということでは、また2回、3回来てもっと市民の意見を言っていこうという積極的なことにならないんじゃないかなと思うので、言っていた意見をこんなふうにして返して、それで実際には実現になっていますとかということがちょっとでも言っていたらいいかなというふうに思うわけです。そういった には、行政との話し合いというか、こういうことはできるのかどうなのかという市民の皆さんの意

見が、だけど行政はここまでやっているんだというようなことが本当にこうやっていけるのかとか、そういうようなことをやはり欲しいなということ。

○委員長（内藤久歳君） 清水委員。

○委員（清水正二君） その件で、前の議会改革のときもそうですし、それをどういうようにして集約してどういうようにして市民に伝達するかということはやっているわけで、それは当然、今回の議会だよりも特集としてその結果報告を載せていますし、その前々回のときにもある程度ピックアップした部分で載せています。そういった中で、対話集会のときもあとのものは回答としてホームページへ載せるというふうなことをやっておりますし、各問題については委員長言われるように、この前のときに各委員会に付託しているというふうな中でやっておりますので、そういう形でやっていないんじゃないじゃなくて、そういう形を手続を踏んでやっているんで、私は今現状の中でいいかと思えますけれども。

○委員長（内藤久歳君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） もし、せっかく質問したのに個人的な答えが返ってこないのというようなことが出ると困るということで対応するのであれば、例えば、お名前と住所をきちんと書いていただいてあればそこに返事をしますよというふうにするかですね。どうしても答えの欲しい方というふうに、書きたいという人があれば。そのかわり、ないものに関しては個人的には返せないからということは大いにくりで、さっき清水委員が言ったようにこういうふうに返しますと言いましたよね、この間の対話集会のときに。あれでいいと思うんですが、もしそういうのが出てくるんで対応したいというのであれば、そういうふうにご名前と住所を書いてもらって、後でそこへ書面でこちらから送るかですね。どうなんでしょう。可能ですか。可能なら、私は丁寧だからやったほうがいいと思いますが。

○委員長（内藤久歳君） 小澤係長。

○書記（小澤 明君） こちらの池神委員さんがおっしゃられているのは、アンケートをとったその他のご意見、ご提案についてのことをおっしゃられていると思うんですけども、これらにつきましては、前回の委員会でアンケート調査結果の報告書をつくる際に、皆さんに既にご協議をいただいたところがございます。そのときに、こちらについては掲載をするだけで、ただしその掲載をするに当たってたくさんのご意見、ご提案をいただきました。いただきましたご意見、ご提案については、今後の活動の参考とさせていただきますというものを冒頭につけて、掲載して報告をするということでまとまったということになっています。

こちら、実際に会場で発言されたことにつきましては、各常任委員会等でもう既にご協議

いただいていますので、皆さんご承知のとおりだと思いますけれども、発言された内容についてはちゃんと無視はしていないで議会だよりも掲載しておりますし、協議も各常任委員会で行っております、結果、結論もこれから各常任委員会のほうで出てくるかと思えます。ですんで、当日皆さんが、会場にいた人たちがあのときの出た意見どうなったかということについては、それぞれ回答はしているかと思えます。それで、手で書いた部分その他の意見でございます。それは、会場にいる人がどの人がどう書いたというのはもうわかりませんし、アンケートに住所氏名書いてありませんので、それについてお答えするというのはなかなか難しいかと思えますし、こういった意見があったということすらも当日会場にいた人は知らない。書いた本人しか知らない内容となっております。

○委員（池神哲子君） ですから、やはり市民の方はよくわからないわけで、1回もうこんなふうに司会の方からでも結構ですけれども、アンケート用紙されたことについてはこのような形で回答して、意義ある対話集会にしておりますみたいなことを、一文でもつけ加えてくれれば、安心すると思うんです。こんなふうに来てきたんですよというようなことで、その人がちゃんともらっていないと思ったりすれば、また不信になるかもしれないけれども、やっているということを2回目からは、その開催に当たってやりましたぐらいのことを言っていたら、それでいいかなというふうに思いました。

そういうことです。

○委員長（内藤久歳君） 池神委員のおっしゃった内容については、今事務局が報告したとおりでありまして、そういった流れに沿って決してそのことに関して、先ほども無視という言葉を使いましたけれども、無視しているのではなくて、ちゃんとやりとりする中で報告はしています。ですから、今池神委員が言われるように、私が言った意見はどうなっている、やはり個別の案件に対しては、やはり議員そのものがその地区に行けば顔もわかるし、もしそういう気持ちがあるのであればですよ、そういう案件に関して自分が責任を持って説明をするなり何なりして、それは今度は各議員の個別の判断の中でやっていただきたいと思えます。

[発言する者あり]

○委員長（内藤久歳君） ですから、対話集会の個別の意見に対して全てにやりとりをするという、回答を出す、答えを出すということは非常に大変なことだと思いますけれどもね。ですから、その点については、やはり今度は議員活動の範囲の中でやっていただく、これも議員の仕事ですよ。そういう観点から、そういった部分を取り組んでいただきたい。それも議会改革の一つじゃないですか。そういった市民の意見を吸い上げるということも必要です

し、もっといえば、例えばそういう人がいたということも、もしそういう気持ちがあるのであれば、自分の努力でその人を探し当てて、その人にあなたの意見はこうでしたけれどもこうですよということも、やはり自分の議員としての責任であるとすれば、そういうこともやる必要あるじゃないですかと思いますけれどもね。それを全体性で捉えて全てにそういうふうにするということは、やはりこういうものを進めていく上では非常に難しい部分かなというように私は個人的には思いますけれども。

よろしいですか。

○委員（池神哲子君） 結構です。

○委員長（内藤久歳君） 何かありますか。

保坂委員。

別件ね。

○委員（保坂芳子君） 今のことですか。

○委員長（内藤久歳君） いいですよ、何でも。

○委員（保坂芳子君） 何でもいいですか。

今の意見なんですが、その他の項目で何でも意見を書くというふうになっていると、やはりそれは書く人もいるし、今出たようなことが出てきてしまうんで、その他の意見を聞かないかですよ。その他の意見を聞く欄をつくらないか、その他の意見で聞くんだったらやはりお名前があればちゃんと回答しますとかという一文を入れるとか、そこまでやらないと、やるのであればですよ。見つけてっていったって誰が書いたかわかんない、それ見ただけではわかんないから。議員がやるというのは難しいんじゃないですか。

○委員長（内藤久歳君） 清水委員。

○委員（清水正二君） アンケートですね。当然対話集会の中ではどこに住んでいるか名前とかは言ってもらわなければならないわけですが、アンケートは無記名でやっているやつですね。無記名だからそのアンケートに書くということもあるわけですね。それ記名して書いたら、個人情報とかそういったことの中でもこれ大変なことだと思うんです。今言われるように、そのアンケートに対して答えなさいと言っても、その本人というのが、要は知り得ない情報の中でそれを探し当てるといことはこれは大変なことだと思うんでね。そういう個人情報とかそういったことの今度はことから入っていかねばいけないんで、アンケートという性質の中でいけば、これは無記名であるから、議会に対して無記名だけれども、我々はこう思っているというふうに我々はそういうふうに解釈して、その中で議会が取り組むというふうな考

え方でいいかと思うんですがね。

○委員長（内藤久歳君） 池神委員。

○委員（池神哲子君） アンケートを書くということは、かなり積極的な人だと思うんですね。ただちょっと行ってみようと、それで聞いてみようという形で、その知識を得たり、そのへということが変わることも多いわけですね。それで、その中でその生活のことや市のことやいろんなこと考えて、こうしてほしいというふうに思う人というのは、ふだんから思っていたり、積極的な行動に出てアンケートに持っていくと思うんですね。ですから、そのアンケートがどういうふうになっているかというのはとても大切なことで、ですから先ほど言ったように、皆さんがアンケートを書いてくれたことによっていろんな面で参考にさせていただいて、直せるところは直して行政のほうにも申し上げていたり、いろんな形で広報にも出したりして私たちはやっていますみたいなことを一言言ってくだされば、司会のほうで。それで私はいいと思うんです。そうしないと、ただ言いつ放しということではないんだということになってから、その程度でいいんじゃないかなというふうに思っているんです。

そういうことです。

○委員長（内藤久歳君） 小澤係長。

○書記（小澤 明君） 繰り返しになりますけれども、アンケート結果報告書ということの前回まとめていただきましたけれども、その結果について、ホームページのほうに既に掲載をしております。それを立ち上げていただくと、そのその他の部分でたくさんのご意見、ご提案をいただきました。いただきましたご意見、ご提案については今後の活動の参考とさせていただきますという一文を入れてあります。ですんで、今後の活動ですんで、この後は今度議員の皆さんが各常任委員会の中の案件であれば、そういったものを委員会の中で質問していただくとか、一般質問の中で質問していただくとか、そういったことが今後の活動ということに含まれると思いますので、そういったところでやっていただければと思います。

以上でございます。

○委員長（内藤久歳君） ということでよろしいですか。

〔「はい、結構です」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） 別件ですね。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） この間やるときに、やる直前に気がついたんですけれども、議会と市民の対話集会とあったんですけれども、やはり市民と議会の対話集会のほうがいいなと瞬間

思いましたね。やはりそのつもりでいたんだろうけれども、何か見たら議会と市民だったので。あれは私は市民と議会のに直していただけたらいいと思うんですが、皆さんいかがでしょうか。

○委員長（内藤久歳君）　そういうご提案がありました。

いかがでしょうか。

〔「賛成」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君）　それでは、その他のほうですけれども、提案がありました。この議会と市民ではなくて、市民が先に来るのではないかというふうなご意見です。

そんなことで、これを入れかえて市民を頭に持つてくるということによろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君）　それでは、事務局よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君）　じゃ、そんな形で今後この頭の表現の仕方は市民を先に持つてくるということで決定をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

ほかにございますか。よろしいですか。

ないようですので、事務局何かございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君）　特にないようですので、以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして議会改革特別委員会を閉会といたします。

ご苦労さまでした。

閉会　午前11時31分